

補助金対象事業報告書(平成25年度)

団体名	NPO法人すぎなみムーサ (平成 22 年 8 月設立)
事業名	街角博物館活動～生活の場に博物館展示を～
事業(該当区分に)	1.活動促進事業 2.協働事業 3.若者活動事業 4.地域活動チャレンジ事業

1 事業の目的

目的	街角博物館活動の提案です。生活の場での博物館資料の展示活動によって健全な郷土愛を育みふるさと意識の啓発・高揚が目的です。街角博物館とは、博物館展示の資料を杉並区立郷土博物館から持ち出して区民の生活の場で展示する活動です。区民参加型展示の資料の街角展示は私たちの団体だけでなく広く市民の活動としたいと思っています。このために必要な経費や新たに調査した成果のパネル制作のための費用の助成をお願いしました。
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 事業の実施状況

	事業計画	事業実施結果
実施状況	実施対象者・対象人数(延べ人数) 一会場三日間の展示。 延べ観覧人員:一日50人述べ九日開催で450人。	阿佐ヶ谷:200人(5日間) 高円寺:300人(5日間) 高井戸:300人(6日間) ・見学者の年齢は展示物の関係で50歳代以上の方が中心です。が、「キップ展」は親子で見学された方もいました。 ・講演会は毎回20名程の参加がありました。(延べ60人)
	実施内容 3回の博物館資料の展示・解説・講座。 ・「杉並にたくさん工場があった頃」 ・「杉並の職人」 ・「JRの記念キップにみる昭和の歴史と杉並の鉄道キップ」	実施内容 当初の予定どおり3回の展示会と3回の講演会を実施し、地域区民センターの地域懇親会など機会あることに活動について賛同者を募りました。
	実施場所 阿佐ヶ谷地域区民センター 高円寺モコンズ 高井戸地域区民センター	実施場所 展示会:阿佐ヶ谷地域区民センター「杉並にたくさん工場があった頃」展、高円寺モコンズ「記念キップにみる昭和の歴史と杉並の鉄道キップ」展 高井戸地域区民センター「杉並の職人」展 講演会:会場では予定通り実施。あんさんぶる荻窪で3回目を行ないました。
	実施回数・スケジュール 展示会は三回 平成25年11月～12月 平成26年1月～2月 平成26年2月～3月	実施回数・スケジュール 展示会三回;阿佐ヶ谷12/19～23 高円寺 2/07～2/11 高井戸3/11～16 講演会三回;高円寺2/11 キップコレクターの橋本玲子氏講演 高井戸 職人の手仕事実演と鈴木加代子氏講演会 追加講演会:あんさんぶる荻窪3/21;東京女子大准教授高橋修氏による「地域博物館の実情と問題点」
	実施体制(従事した人員数・設備等) ・当法人には学芸員資格所持者が3名在籍している。 ・郷土博物館分館での区民参加型展示5回の経験をもとに、会員が3ヵ所の会場を分担して分かりやすい展示・解説を行う。 ・各展示には、内容に応じた有識者を招聘して、テーマに沿った講座を開催する。	実施体制(従事した人員数/設備等) NPOすぎなみムーサ団体会員を三つにわけ、それぞれにセクションリーダーを配置し概ね一会場で3～5人の担当を決め従事しました。会員は何らかの担当者になり、全員参加としました。また 例外の時間はありましたが 常時展示解説員を置き、開催時間中は展示会場に在席していました。
自己評価	事業は当初の予定どおり実施できましたか。 予定以上の日数の開催を実現できました。そのため当初の活動は存分にできました。講演会も(思っていたより)多くの参加者がいて、それなりに活気のある講演会でした。今回の活動は街角博物館とは何かを示す活動とその関連講演会という具現化した部分と私たち法人が市民運動として広めたい理念の公示という部分がありました。私たちの試みは具現部分では問題なく進み、かつ 大きな成果ではなかったかもしれませんが地域のオピニオンや区民の方々に私たちの活動を伝えることもできたと思っています。 [自己評価] <input checked="" type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> 概ねできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> ほとんどできなかった	

3 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

事業計画時		事業実施後	
当初予定したニーズがありましたか。			
<p>私たちの普段の活動から区民は「杉並区の歴史には一定の感心はある」と感じていた。しかし信用できる著作が少なく読める機会も少ないため語りや展示には興味あると思えた。</p>		<p>街角に、「博物館レベルの展示を行いたいという主旨への理解」はあったと思っています。来館者との質疑応答や感想ノートにはそれらが感じられました。私たちは、街角で、生活の場で展示を行なうという活動は実は広がりがあるのだ、と実感しました。 人々の歩みや先人達の労苦をみせて、その地域がどう発展したのか、その時人々はどう生きたのかという歴史を開示してきました。私たちの街角博物館は、郷土への感心を呼び起こす糸口を見つけるための展示になったと思います。</p>	
[自己評価]			
<input checked="" type="checkbox"/> あった <input type="checkbox"/> 概ねあった <input type="checkbox"/> あまりなかった <input type="checkbox"/> ほとんどなかった			
地域の特性を活かした活動になりましたか。新たな問題提起ができましたか。			
<p>・杉並区に居住する方々がその住まう地域を知る、歴史を知る。街角博物館活動が、区民の皆様に「ふるさと意識の形成」の一助になればと考える。 ・ふるさと意識の向上により、地域活動への興味をおこし、地域の担い手としての自覚が形成される。「地域の問題点」と「その解決策」を地域の皆様と共有する意識改革の提起につながればと考える。</p>		<p>私たちは地域の歴史・特性とそれを象徴する遺物(生活の道具や職人の工具など)の開示と人々の歩みを展示しようという活動です。その意味では大いに成果はあったと思います。あまりにも些細な例ですが「見学者の「え、杉並ってそんなに工場があったの」「青梅街道に西武電車が走っていたの。」」などなど展示解説から杉並の歴史の多面性に驚いたようでした。古くから住んでいる人にとって常識と思うことが知らなかったり、また、新たに転入してきた人には瞳目の歴史とかんじるたのでしょ。こういったことが糸口となって地域を知りそれを言い伝えらるといった機運が生れれば私たちの活動の成果と考えています。</p>	
[自己評価]			
<input checked="" type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> 概ねできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> ほとんどできなかった			
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。			
<p>・「ふるさと杉並の歴史」についての認識が希薄な方々に対して、「杉並の故郷意識の向上」に役立てればと認識している。 ・歴史展示が中心の博物館展示を、地域の皆様の生活に近いところで公開することで、博物館が認識され、その存在意義、機能が拡大することにつながればと考える。</p>		<p>興味を示した人は展示場に長くいました。展示のキャプションをメモる方もいるほどです。このようにとりあえずは興味という部分からのスタートですが、私たちが高揚するほど見学者の反応は高かったと思います。また 何人かの人々がなぜこのような活動をボランティアで行なうのですかという本質的な質問もありました。その答えがこの報告書なのですが、何人かの見学者は活動に絶賛していただきました。勿論 見学者の数倍 展示に何の興味を示さない人もいた事を改めて報告します。それでも 期待される効果は充分あったと実感しました。また 見学者の数は低く見積もっても850人以上です。こういった数ではなく質を大切にしました。</p>	
[自己評価]			
<input checked="" type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> 概ねできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> ほとんどできなかった			
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。			
<p>相対的には心情的な支援者は広がったと思います。が、単純に会員増加などという結果にはなっていません。もっとも私たちがそういった活動をやや控えた事由にもよります。しかし 展示会場では「杉並にたくさん工場があった頃」、70年住んでいるがこんな工場があったとは知らなかったとか、もっと知りたいなどの感想の区民 キップ展は同じ趣味や研究者の多い分野なので「資料の提出希望者」など数人の個人・グループがありました。JRの施設での展示ではJR職員の資料提出希望もありました。さらには 民鉄のキップ印刷会社の元オペレーターが展示会に来館しきわめて重要な証言をされていきました。の杉並の職人展は扇職人の活動を大きくとりあげたためやはり同好の方が多く集まりました。しかし、私たちは「街角を曲がったら博物館展示」という偶発的な出会いを優先しました。生活の場で杉並の歴史やその地域やその生業を展示していこうという活動です。前を通りかかって博物館レベルの展示をみられ、また自分の生活にもどるといふ教条的な展来会ではない展示を試みる活動でした。私たちは16日間の展示でこういった試みに対する支援はあったと実感しています。</p>			
[自己評価]			
<input type="checkbox"/> 広がった <input checked="" type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> 広がらなかった			

効果・成果及び自己評価

4 事業の公開と「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	チラシなど多くの印刷物や展示パネルについて基金の存在とこれの助成により活動を続けたと明記しました。また 会合などでもその事実を伝えてきました。幾つかのNPO団体では基金の理念や手続き方法なども教示しました。さらには 展示解説の時、多くの区民に口頭で伝えました。何人かはNPOの活性化のためには良い制度だといった感想をいただきました。
--------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5 今後の課題と活動について

今後の課題と活動	街角博物館運動はイベントではなく市民運動だと私たちは捉えています。したがって 私どものNPO活動の行動軸のひとつとして継続していこうと考えています。私どもの事業計画としては平成26年度も一回は実施しようとしています。改めて言うまでもなく区内の文化系NPOは資金繰りに苦慮しています。多くの事業が無料で開催し、たとえ有料だったとしてもそれは経費負担分程度ですので活動を活性化すればするほど会員の費用負担が増える傾向にあります。文化系NPOの事業化はきわめてむづかしくNPO支援基金のような制度がなければ継続も思うに任せません。基金の採用事業はイベント型活動の支援が多いようにも思われますが「理念広報型」の活動にも支援くださいませ。文化、博物館活動などはなかなか市民の支援を受けられません。勿論反対する人もいないのですが「同好会」と思われてしまうのでしょうか。26年度も区民参加型展示と街角博物館活動を継続していきます。
-----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6 活動状況について

展示並びに講演会風景

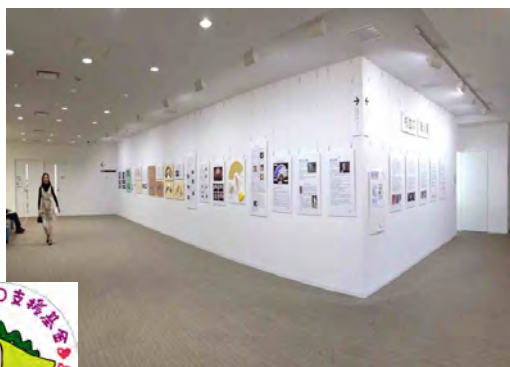
① 「杉並にたくさん工場があった頃」展



② 「記念キップにみる昭和の歴史と杉並の鉄道キップ」展



③ 「杉並の職人」展



④ 「地域博物館について」講演会



事業費	305,353	補助金額	200,000
-----	---------	------	---------

収入		予算額	決算額	決算額内訳
	団体負担金	222,500	105,353	団体負担金 105,353
	参加費・資料代等			
	その他の収入			
	NPO支援基金助成	300,000	200,000	
	計	522,500	305,353	

支出	費目	予算額	決算額	決算額内訳
	報償費	39,000	30,000	講師代 (@5000x2名x1回 = 10000、@20000x1名x1回 = 20000)
	旅費	120,000	10,710	駐輪代(710) 講師交通費(新宿~石和 往復)@10000x1名x1回 = 10000
	備品費・消耗品費	162,500	102,022	(パネル23336+コピー-2324+インク3980) = 29640 (パネル 5600+コピー-1940+インク10927+備品11518 = 29985 (パネル24990+コピー-9120+備品7357 = 41467 追加講演会(コピー-930)
	役務費		6,870	展示品運搬費 西荻窪~高円寺往復(A1パネル6枚、A4パネル50枚、小道具BOX、テーブル):2,510 + 2,780=5,290 永福町~高井戸往復(A1パネル15枚A4パネル10枚) 1,580
	使用料・賃借料	105,000	24,840	会場使用料 高円寺5日間15000円、高井戸@1000x6日 = 6000円、講演会室料3740円
	その他の経費	96,000	130,911	ボランティア実費弁償他 阿佐ヶ谷:18,350 (@1,000x11回=11,000) + 印刷7,350(500枚) 高円寺:50,561 (@1000x19回=19000)+DD30000) + カフェトーク茶菓代1561 高井戸:62,000(@1000x41回=41000)+デザイン21000
	計	522,500	305,353	